



## 令和7年度 枚方トピックス 9号

### 福祉体験(五感で学ぶ思いやり)



自立活動の授業で、介護福祉士の資格を持つ教員の指導のもと、子どもたちは五感の重要性を学び、白杖や点字ブロック、Bluetoothスピーカーなどの道具を用いて視覚・聴覚・触覚を補う疑似体験を行いました。目隠しをして白杖で歩く際の的確な誘導方法や、音を頼りに距離を測る聴覚ゲームを通じて、知識の習得に留まらず、相手の立場に立った具体的な支援や安心感の与え方を実践的に学ぶ機会となりました。子どもたちは体験を通して、日常生活に潜むバリアフリーの重要性と、周囲の協力の大切さを実感することができました。



○箱の中身を手探りで触って当てるゲーム、音の方角を当てるゲームに挑戦しました。

○手をつないで誘導する際は、手をつないで引くのではなく、両肩を近づけて並んで一緒に歩くだけで、安心感が違うことを知りました。

○音のボッチャでは、目を閉じたまま、Bluetoothスピーカーの入った目的を聴き分けて、全員その方角に投げることができました。中には方角や距離を考え、2回投げて、2回とも狙った的に当てることができた生徒もいました。

## 福祉体験学習：五感で学ぶ思いやり

他者を助ける方法を体験的に理解する。

**触覚：点字ブロックの意味を学ぶ**  
誘導ブロックと警告ブロックの違いと役割を実際に触れて考えました。

**視覚：白杖を使って歩行体験**  
目隠しで、友だちの具体的な声かけを頼りに、教室を安全に1周しました。

**聴覚：「音のボッチャ」に挑戦**  
目を閉じ、音の方向と距離だけを頼りに目的を狙うゲームを体験しました。